

令和 7 年 8 月 4 日（月）

午後 2 時から

寝屋川市役所議会棟 4 階

第Ⅰ・Ⅱ会議室

令和 7 年度第 3 回

寝屋川市社会教育委員会議

議案書

寝屋川市教育委員会

案件第 1 号

- ・ 令和 7 年度所管事業について（中央図書館）

案件第 2 号

- ・ その他

令和7年度

事業別概要一覧

「中央図書館」

【事業別概要一覧】

中央図書館

	事業名	事業概要	意見・質問等	回答	再質問	R7予算 (円)	R7年度 特記事項	備考
1	利用者サービス事業	中央図書館を図書館ネットワークの中核として位置付け、分館、分室、移動図書館とともに図書の流通を推進する。 また、予約本の受渡しを市内郵便局、各シティ・ステーションで行うことにより、図書館利用者（子育て世代、シルバー世代等）の利便性の向上を図る。	図書館窓口業務を受託する企業が従事者の不足により各自治体間で取り合いになっています。今後安定した委託事業先の確保のため、どのような工夫を考えていますか。	今回、（仮称）子ども専用図書館については、業務委託を見直し、直営とするところでございますが、今後、窓口事業者を選定するにあたっては、社会情勢等を十分踏まえた上で、委託金額や委託期間、入札方法等の見直しについても検討していく必要があると考えております。	-	136,130,000	予算減額 △30,444,000 円 ・駅前図書館 休館のため。	-
2	資料収集・保存事務	利用者の幅広いニーズ及び社会情勢等を踏まえ、資料・情報を収集・保存し、市民に提供する。	-	-	-	41,788,000	-	-
3	ICT化推進事業	図書館情報システム（蔵書管理、貸出・返却・予約機能、蔵書検索機能等）及び自動貸出機等の情報機器を活用することにより、利用者の利便性の向上を図る。	-	-	-	14,821,000	-	-

	事業名	事業概要	意見・質問等	回答	再質問	R7予算 (円)	R7年度 特記事項	備考
4	電子図書館事業	図書館に足を運ぶことなく、スマートフォンやタブレット等から電子書籍を利用できる電子図書館サービスを実施し、市民の読書活動の推進を図る。	電子図書館事業のサービスについては、この自治体もほとんど同じです。本市なりの独自性を考えないと、利用者が「府」に流れたり、近隣市あるいは利用制限しない遠方の自治体にも流れます。今後の展開を考えておく必要があると思います。	現在、電子図書館サービスについては、紙の本と同様の選書基準で資料を収集しておりますが、今後は、紙での収集が難しいものを電子図書館で選書・収集するなど、電子図書館の選書基準についても、検討していく必要があろうかと考えております。	・今後の戦略を教えて欲しい。 ⇒例えば、人気のある本を電子で入れて待ち時間を解消するのか、資格の本を電子化するのか、内部で選書基準を検討しているところです。	6,358,000	-	-
5	読書普及啓発事業	市民の読書活動の向上及び推進を図るため、講座・講演会を定期的に開催する。	YA世代の読書推進のために講座・講演会等を企画してはいかがでしょうか。	次年度には、(仮称)こども専用図書館が開館し、自習スペースには、多くのYA世代(中学生・高校生)の利用を見込んでおりますので、YA世代が参加できる講座なども検討してまいりたいと考えております。	-	736,000	予算増額 98,000円 ・講演会の講師増員のため。	-
6	障害者・高齢者・多文化サービス事業	視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で行い、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者団体に配布し、利用促進を図る。 高齢者については、老眼等により小さな文字見にくい利用者のために、拡大読書器・大活字本等を提供する。また、在日外国人や外国語文化に親しみたい利用者のために、外国語資料等の充実を図る。	学校の支援学級と連携することにより、障がい者読書サービスを考えられないですか。	近年、大阪府立支援学校とは、図書館見学や絵の本ひろばの開催など様々な取組を行っておりますので、今後、小中学校の支援学級とも、こういった取組が可能であるかも含めて、検討してまいりたいと考えております。	・障害のある方への支援策を教えて欲しい。 ⇒具体的には、手話による絵本の読み聞かせ・電子図書館の案内・拡大図書のPRなどを行っています。聴覚障がい者の方については、職員とのコミュニケーションに障壁がある場合があり、それらをどう解消していくかが課題となっております。障害のあるなしに関わらず利用して頂けるような取り組みを行っております。	144,000	-	-

	事業名	事業概要	意見・質問等	回答	再質問	R7予算 (円)	R7年度 特記事項	備考
7	子ども読書活動推進事業	子どもが本に親しむきっかけをつくり、読書の習慣化に繋がる環境整備を図るため、第3次子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動を推進する。	-	-	・第1次、第2次子ども読書活動推進計画の取り組みが知りたい。 →例えば、生後4カ月の赤ちゃんに絵本を送る事業や、東図書館にある子どもスペースの拡充、学校司書の配置、市内の小中学校に読書通報を配布する取り組みなどを行っています。次年度に策定する第4次計画では学校との連携を更に図っていきたいと考えています。	5,197,000	-	-
8	学校連携配送事業	図書館資料の効果的な活用を進め、市立小中学校に通う児童・生徒の考える力を育む学習環境の更なる充実を図る。 【学校図書館図書配送事業】 学校が希望する中央図書館の本を月1回、各小中学校へ配送する。 【児童・生徒への図書配送サービス事業】 児童・生徒のタブレットから予約された中央図書館の本を週1回、各小中学校へ配送する。	中央図書館の蔵書を学校へ配送していただけるのは、子どもたちにとって大変良い機会になっています。	引き続き、児童・生徒の学習環境の充実を図るため、小中学校への図書配送を推進してまいります。	-	5,608,000	-	-
9	(仮称)こども専用図書館整備事業	寝屋川市駅前図書館を子育て支援機能を付加した、子どもの学びと成長を支援する(仮称)こども専用図書館として整備する。(令和6年度～令和7年度にかけて工事予定)	-	-	-	563,076,000	予算増額 522,697,000円 ・(仮称)こども専用図書館開館に向け、委託や備品購入等整備を進めるため。	-
	その他・ご質問	・子どもの図書館利用率が知りたい。 →就学前は保護者と一緒に来館することが多いです。小中学生の利用率は下がる傾向ですが、高校生・大学生になると自習室の使用などもあり、再び高まります。その子一人ひとりに適した利用の時期があると考えています。令和7年8月号の広報では『今年の100冊』という記事を掲載しており、読書のきっかけ作りを行っています。 ・読書を推進するイベントがあるのか教えて欲しい。 →ビブリオバトルの他、ドラマ・映画化されている本を紹介する展示や、ポスターなどで興味を持ってもらえるような仕掛け作りを行っています。 ・本が好きな子どもに、本を好きになったきっかけについてアンケートをとると、「小さい頃から家族に本を読んでもらっていた」「学校の課題などで好きなことを調べているうちに好きになった」という結果が出た。家庭へのアプローチを教えてください。 →新設の(仮称)こども専用図書館は子育て支援施設も兼ねているため、子育てサポート機能があります。司書と保育士の連携が可能となる予定です。 ・図書館は何歳から一人でいけるのか。 →文字が書ければ利用は可能ですが、小学生は1人で校区から出られないので、校区内に図書館がある子であれば利用できます。おきがる号を利用する子もいます。 ・父親をターゲットにした読み聞かせ講座はあるのか教えて欲しい。 →読み聞かせ講座はありますが、父親・母親とターゲットを分けているわけではありません。今後の参考にいたします。						
	その他・ご意見	・市民の中には、図書館の存在自体を知らない方もいる。全世代が本を手にとってもらえるような取り組みが必要。 ・今の小中学生は忙しく、図書館へ行く時間がない。学校の中でもできる取り組みを推進していきたい。例えば、読書通報・ブックトーク・おとどけボックスなど、図書館と連携したいと考えている。可能であれば学校司書に常駐して欲しい。 ・四條畷市の図書館では、学校で本を借りるとスタンプがもらえるスタンプラリーを行っている。スタンプがたまれば読書委員手作りの景品がもらえるので、子ども達に好評である。学校司書が常駐しているため、イベントがしやすい環境となっている。 ・この本を借りた人にはこの本もおすすめするという仕組みがあればよいのではないか。						